# たま ヘルスケア クラスターのご案内

~たまふれあいグループの目指すもの~



たまふれあいグループ

Tama Fureai Group



# たまふれあいグループの概要









たまふれあい クリニック

たまふれあい 訪問 リハビリテーション



たまふれあい 訪問看護 ステーション



たまふれあい 居宅介護 支援事業所



たまふれあい 介護と住まいの 相談センター

福祉 事業



障害者多機能型 事業所 たまフレ!

施設事業



たまふれあいの家

たまふれあい グループホーム (枡形/登戸新町)

(看多機) ナース&ケアハウス ふれあい



デイサービス ふれあい





一般社団法人 たまふれあいの森

#### グループ名

グループ代表

構成法人

たまふれあいグループ

鈴木 忠

- ■医療法人メディカルクラスタ
- ■株式会社保健医療基盤
- ■一般社団法人たまふれあいの森

**T214-0014** 

川崎市多摩区登戸1763

ライフガーデン向ヶ丘2F

資本金(出資金)

医療法人メディカルクラスタ

2780万円 800万円

株式会社保健医療基盤 一般社団法人たまふれあいの森

200万円

創立

2012年4月1日

従業員数 (連結)

172名 (常勤108名 非常勤64名)

私がかつて地域中核病院の外科医をしていたころ、嚥下障害による胃瘻造設を目的に80歳代の患者さんが紹介されてきました。ご家族ともよく話し合って胃瘻の功罪を理解していただいたうえで、手術を行いました。術後経過も問題なく、患者さんは地域の老人ホームに帰って行かれました。しかし、2週間もしないうちに誤嚥性肺炎を起こし病院へ戻ってきてしまいました。

そのとき、私は理由を聞いてびっくりしました。施設の職員の方は「胃瘻は管理をしたことがないし、食べさせたら食べられたので、経口で食事を出していました」と。この時私は、病院の中だけで一生懸命になっていても地域医療全体は良くならないのだということを痛感いたしました。もう20年近くも前の話です。

現代の医学や医療技術の進歩はめざましいものがあります。情報技術の進歩は、世界中の研究 や治療法を幅広く素早く知ることを可能にしました。そのおかげで、医学や技術は急速にグロー バル化、スタンダード化が進んできています。

一方で、人々は地域で暮らし、地域の中で生きています。世の中がどれほどグローバル化した としても、人々の暮らしは地域の中にあります。そして、たとえ遠隔医療などの科学技術が進ん だとしても、ひとがひとへ伝えるぬくもりややさしさを超えることはできないと考えています。 だからこそ、私たちはローカル(地域)に徹底したこだわりを持ちたいと思っています。

「たまヘルスケアクラスター」は、法人組織でもなく、ホールディングカンパニーでもありません。地域にとって最適なヘルスケアを実現するために必要な組織の連合体です。ですから構成する組織は、法的、行政的なセグメントとしては医療法人であったり、株式法人であったり、あるいは一般社団法人だったりしています。地域にとって必要なものであれば形にはこだわらず組成されていくべきと考えています。そしてそれぞれの組織が自己最適化を追求するのではなく、地域の人々にとって最適なヘルスケアを提供できるように、患者や利用者の満足・医療の質・経済性といった本質追求による求心力によって連合されることで全体最適化を目指していきます。

地域に生きる人々に最適なヘルスケアを提供すること・・・これがたまヘルスケアクラスターの最大の使命と捉え、微力ながら日々邁進してまいる所存です。 皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



たまふれあいグループ 代 表 鈴木 忠



## **代表者略歴**Biography

1990年3月 日本医科大学医学部卒業

1990年4月 東京女子医科大学付属消化器病センター外科入局

1996年4月 医療法人緑成会横浜総合病院外科入局

現場の一外科医として生涯を懸ける決意で同病院へ就職するも、院内の経営環境の変化に「医師にも経営の知識が必須」であると痛感。医療経営を志向し、同院 退職

2004年4月 株式会社メディカルクリエイト入社

医療コンサルタントとして病院利益改善やクリニカルパス導入などを行うなかで、 地域ヘルスケアクラスター構想に着想

2007年4月 医療法人三喜会入職

経営企画部長として横浜新緑総合病院の利益改善に従事するも、理事長へ新しい 経営方針を納得させられず退社

2008年8月 株式会社メディカルクリエイト再入社

ふたたび医療コンサルタントとして従事。2010年4月には取締役就任 地域ヘルスケアクラスター構想実現のために病院買収を模索するも、リーマン ショックなどのファンド環境の変化などから、「小さなものからコツコツと」 作り上げることを決意

2012年3月 同社退職

## グループ沿革 History

2012年 4月	たまふれあいクリニック開設
2014年 4月	医療法人メディカルクラスタ設立
2014年11月	たまふれあい訪問看護ステーション開設
2016年 8月	たまふれあい居宅介護支援事業所開設
2017年 5月	障害者就労支援事業所たまフレ!開設
2018年 3月	たまふれあいの家(グループ2ユニット、看護小規模多機能型居宅介護) 開設
2018年 4月	認知症対応デイサービスふれあい開設
2020年 6月	たまふれあいの家 登戸新町(グループホーム3ユニット)開設
2021年10月	デイサービスふれあい 通常型事業所(定員30名)として移転 訪問看護のリハビリ部門を訪問リハビリテーションとして独立
2024年 1月	たまふれあい 介護と住まいの相談センター(老人ホーム紹介業)開業



## たまふれあいグループの理念

Mission

地域の人々の、 よりよい生活と人生のために ~こころとからだに、ぬくもりとやさしさを~

## たまふれあいグループの基本方針

Basic policy

- 私たちの提供するヘルスケアは、地域の人々のためのものです。
- 私たちの提供するヘルスケアは、人々の今と将来に寄与します
- 私たちの提供するヘルスケアは、常に全人的かつ人間的であり続けます
- 私たちは、誇りと働きがいを持ってヘルスケアを提供します

人々は地域で暮らし、地域の中で生きています。 世の中がどれほど発達したとしても、人々の暮らしは地域の中にあります。 そして、たとえどんなに科学技術が進んだとしても、

ひとがひとへ伝えるぬくもりや やさしさを超えることはできないと考えています。 だからこそ、私たちは地域に徹底したこだわりを持ち続けます。



#### ① プロフェッショナル意識を持とう

- プロフェッショナル意識とは、顧客に対して自分たちの提供サービスの責任をも つことである
- そしてその責任を全うするために全力をつくすことである

#### ② 顧客の感動を創りだそう

- 言われたことをやるのは当たり前。言葉にされない願望やニーズを先読みして応えることが顧客の感動、幸福感を創りだす
- まずはおせっかい焼きになろう

#### ③ 自分で考え行動しよう

- ・顧客にとってベストはなにか、それはチーム全体としてバランスがとれているかを考えよう。全体を見ない行動は、ただのひとりよがり
- 目的を明確にすれば何をすればいいかがわかり、課題を明確にすればどうやれば いいかがわかる

#### ④ 顧客は誰かをつねに意識しよう

- ・顧客のない仕事はない。例えば、エンドユーザーに直接会わない現場を支援する 仕事では、顧客は現場の職員である
- 自分の仕事は誰のためにあるのかを常に意識し、その顧客の感動を創り出しているかを意識しよう

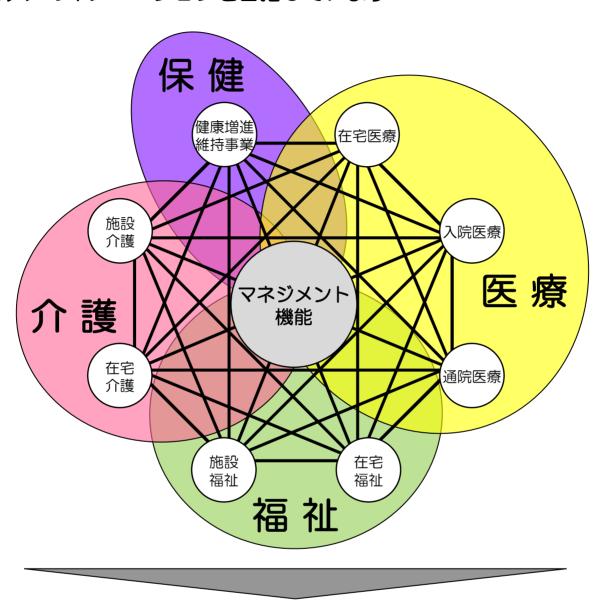
## ⑤ 仕事を楽しもう

- 仕事が楽しければ一生懸命やる気になり、結果的に顧客のためにもなる
- 辛い思いをしてきっちりと仕事をするのは当たり前。いい加減な仕事を楽しくやるのは仕事にあらず、ただのサークル。楽しくきっちりとした仕事をしよう

## たまヘルスケアクラスターの基本概念

## Basic concept

たまふれあいグループは、医療・介護・保健・福祉の地域統合型ネット ワークとしての「たまヘルスケアクラスター」の創造を通じて、地域ヘ ルスケアのイノベーションを目指しています



#### 概念

- 患者や利用者の満足・サービスの質・経済性といった本質追求による求心力によって、医療・介護・保健・福祉が統合的に結ばれるネットワーク型の連合体であること
- 患者・利用者がシームレスで最適(安く、迅速で、質の高い)な医療・介護・保健・福祉が受けられる、市場に対して適正な組織構成であること
- 不採算部門を切り捨てることなくクラスター全体が、医療・介護技術の進歩にあ わせた設備や人的投資を行い続けるために必要な財源が確保できること
- これらを論理的、組織的にコントロールすることで全体最適化を実現するマネジメント機能を有すること

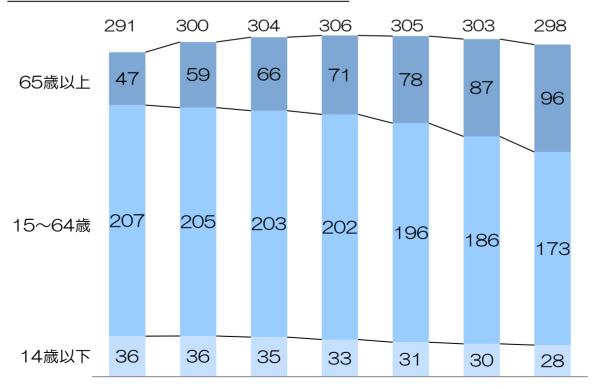
# たまヘルスケアクラスターでの"地域"とは

Target area

行政区としての多摩区と、その周辺の市区である 宮前区、高津区、麻生区、稲城市の一部をターゲット地域とします。 (概ね半径5~6km) 多摩区の21万人と、周辺地域の数万人を合わせた約30万人が、たまヘルスケアクラスターの対象です



### ターゲット地域の人口推移予測(千人)



2010年 2015年 2020年 2025年 2030年 2035年 2040年

# たまヘルスケアクラスターの求心力の本質



地域ドミナント展開をベースに、経済力、商品力、ブランド力、経営力の4つの力をもつことで、すべての事業体が強固にバインドし合いパフォーマンスを 最大化します

行政のそのときどきの政策誘導などによって、組織ごとの収益力には大きな格差が生じる。各組織ごとに利益を追求すると個別最適化は起きるが、それが必ずしも全体最適化にはつながらない。

クラスター内で利益の再分配を行うことで 全体最適化を達成すると同時に、必要な組 織や部署に長期的視野に立った戦略的な投 資が可能になる ヘルスケアを提供する上で必要かつ十分なすべての組織(ピース)がグループ内に存在することで、顧客に対してシームレスなサービスと最適な環境を提供することが可能となる。これによって顧客へ高質なサービスと、効率化による高い経済性を提供する。グループの中でのそれぞれの組織の存在自体が高い商品力となることで求心力の本質となる



高い理念と目標を常に革新的に追求し続けることによって、これに賛同した人々が集まり、その実現へ向けたたゆまない努力が継続されるとともに、世の中へ多くの発信を行うことで、強いブランド力が構築される。更にそのブランド力が質の高い人材の求心力となるという良循環が形成される。たまヘルスケアクラスターにいることで理想実現力が得られると同時に、各人の高いプライドと満足感を創出する

それぞれの組織がベストな経営を行うためにつねに人材を確保し、教育し続けることは非常に難しいが、クラスターが本部機能として経営企画力を持つことで、より効率的で強力な経営力を継続的に保持することが可能となることで、クラスターにとどまる価値を創出する

## クラスター(地域ドミナント)戦略

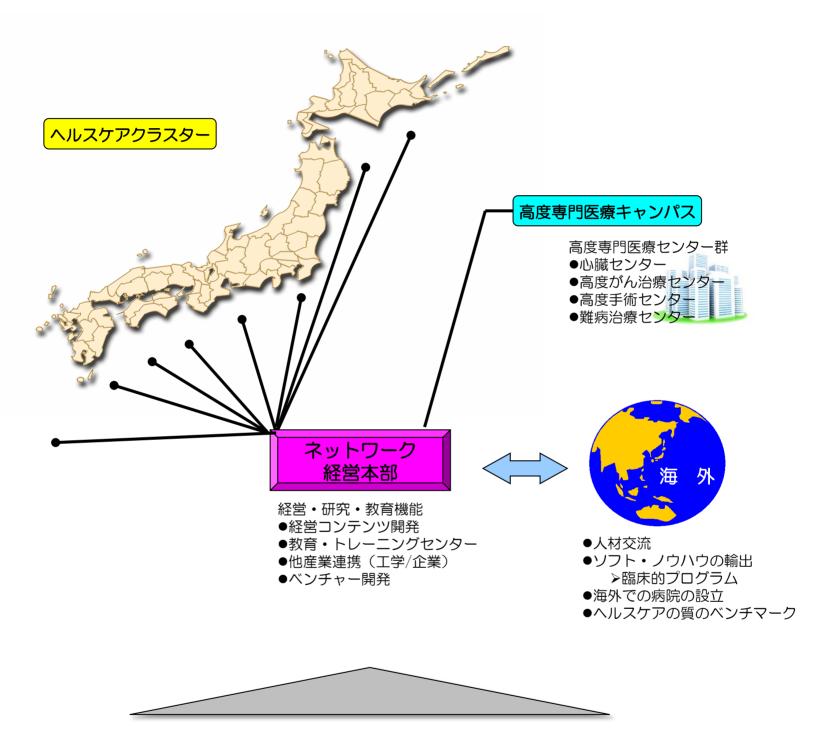
これらの高い求心力を実現するもっとも重要な要素のひとつが、クラスター (地域ドミナント)戦略である。ドミナントであるからこそ、効率的、生産的、 そして具体的に実現することが可能となる

# たまヘルスケアクラスターの目指す将来像

Future plan



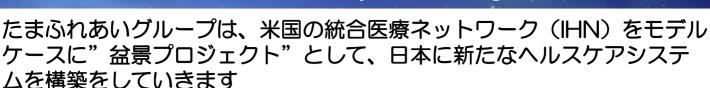
一つの盆景プロジェクトから、ヘルスケアクラスターの水平展開を行うとと もに、それぞれのクラスターのネットワークから新たな垂直展開を進めます



- ベストプラクティスとしてのたまヘルスケアクラスターの基本概念を全国へ展開
- スケールメリットを活かした経営・研究・教育機能を持つ経営本部の設置
- 経済的、人的(患者、研究者、臨床医など)資源が集中する高度専門医療キャンパスの設立
- 海外へノウハウやコンテンツの輸出、人的物的交流

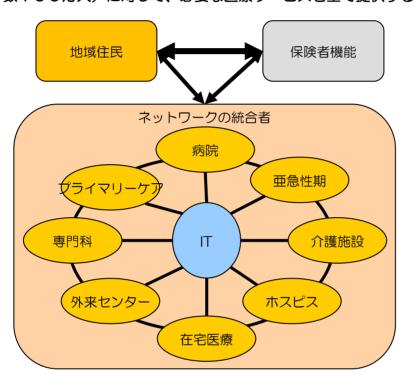
# IHN日本版 盆景プロジェクトとして

## IHN Bonkei Project ~Japan Edition~



#### 米国 統合医療ネットワーク: Integrated Healthcare Network(IHN) とは

定まった定義はないが、医療市場の変化と共に進化を遂げて基本的には一定地域の住民(100万~数100万人)に対して、必要な医療サービスを全て提供する仕組みのことを指します



#### 医療の質の確保

- 患者に対するシーム レスなケアを提供する
- ・アウトカム改善のためにはデータ整備が必要だが、莫大なコストがかかる

#### 医療費の抑制

- ・コスト管理のためにより洗練されたマネジメントが必要
- ・患者を囲い込むことで、トランズアションコストを削減

IHNの 特徴

- 全米に存在するIHNは約600。急性期病院の約4割が所属
- すべてのIHNが成功しているわけではない。質向上の観点からは明らかに有利だが、必ずしも経営的に利益が出やすい組織構造ではない
- ・ 保険者機能を持っているIHNは全体の約2割
- ・ 米国でIHNが進んだ理由は医療技術の進歩や高騰する医療費などにより入院患者 数が減少し、患者囲い込みが必要になったためである

## IHN日本版 盆景プロジェクト

盆景とは、お盆の上に土や砂、石、苔や草木などを 配置して自然の景色をつくるものです。

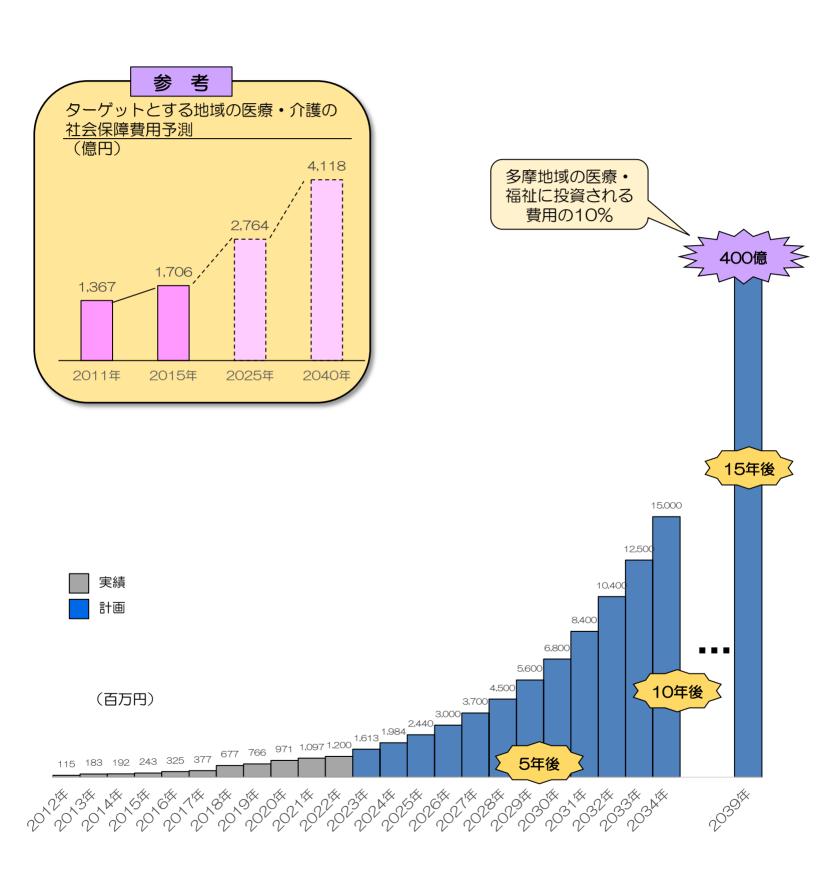
当グループでは、米国のIHNをモデルとして、まずは 人口30万人程度を対象としたネットワークを構築 することを目的にしています。

つまり、小さくても中身がそろったもの=盆景 を 作り上げ、成功事例として世の中に示すことをプロ ジェクトミッションとしています。



# グループの売上の目標

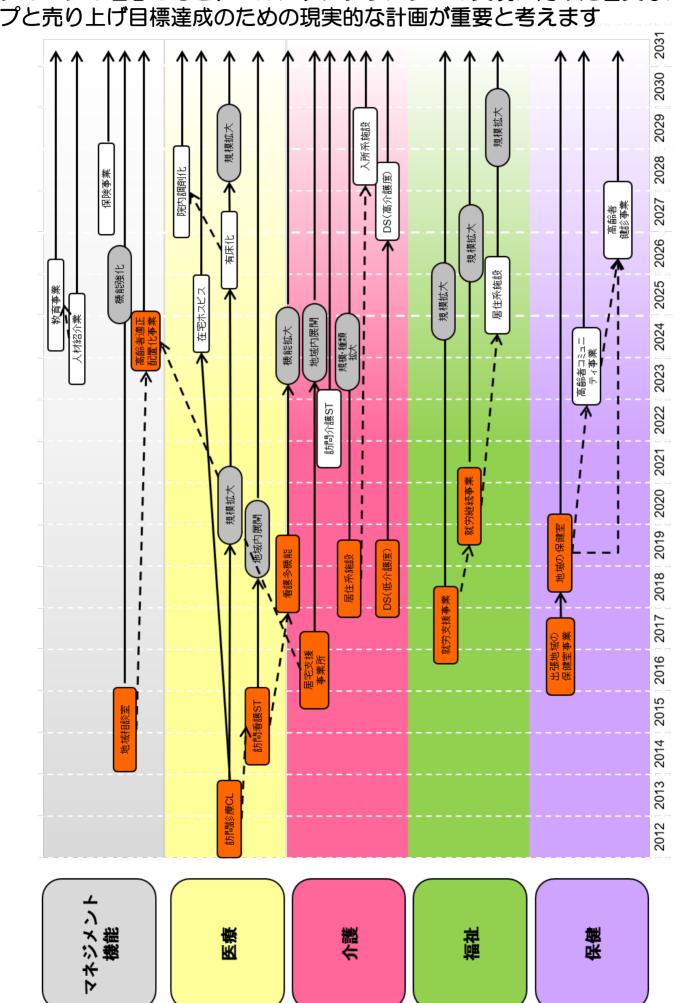
多摩地域にしっかり根づいたビジネスを進めることで、15年後にターゲットとする地域の医療福祉に投資される費用(社会保障費用)の10%のシェアを目指します



# 事業達成へのステップ

## Step to the business achievement

グループの理念のもと、ヘルスケアクラスターの実現に向けた着実なステップと売り上げ目標達成のための現実的な計画が重要と考えます



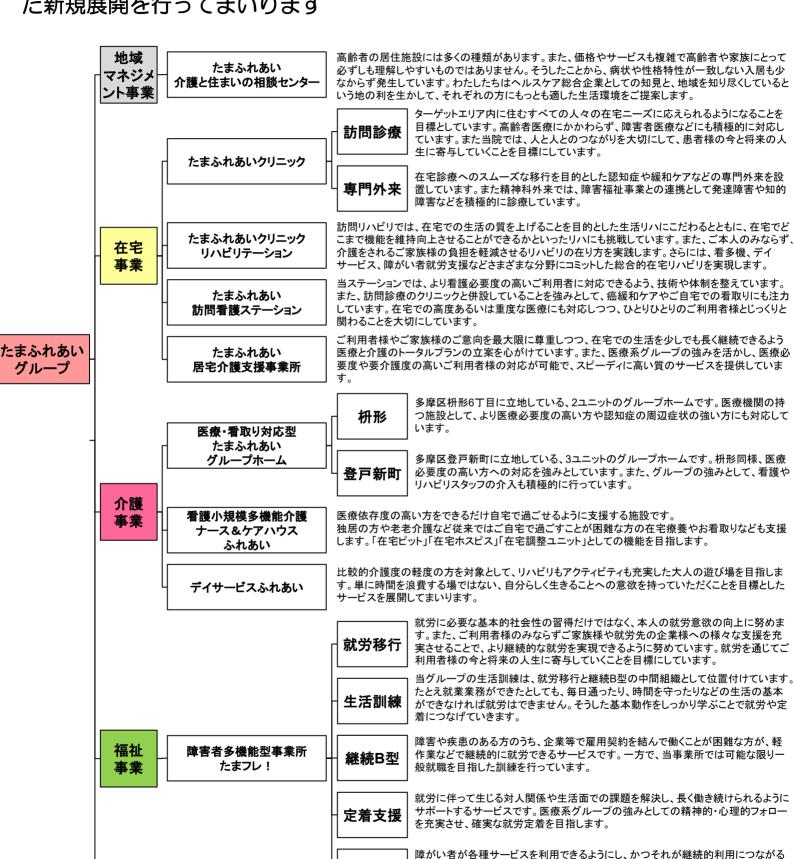
すでに着手している事業

グループ

## Actual business development



たまヘルスケアクラスターの実現に向けて、多種多様な事業展開を行ってい ます。それぞれを確実に成長させるとともに、さらにクラスター実現に向け た新規展開を行ってまいります



保健 事業

一般社団法人 たまふれあいの森 計画相談

地域の人々の健康の維持・増進を支援するとともに在宅療養への関心を啓発する事業を行っています。 たまふれあいまちの保健室では、骨密度や血管年齢などの健康チェックのほか医師や看護師が健康 相談を行うイベントで、多摩区内で各地を1~2ヶ月毎に開催しています。

地域での暮らしができるように、生活全般へのマネジメントを行います。

ように支援する業務です。当グループはそれだけにとどまらず、障害者一人一人が

# アクセス&アドレス





事業所	住所		電話番号	
たまふれあいクリニック	〒214-0014 川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F		TEL:044-931-3380 FAX:044-931-3381	
たまふれあい 訪問看護ステーション			TEL:044-922-5665 FAX:044-922-5667	
たまふれあい 居宅介護支援事業所			TEL:044-934-8801 FAX:044-934-8802	
障害者就労支援事業所	事業所	〒214-0014 川崎市多摩区登戸2519-1 ヨシザワ10ビル4F	TEL:044-930-1177	
「たまフレ!」	作業所	〒214-0032 川崎市多摩区枡形2ー24ー6 エスペランザ枡形 1階	FAX:044-930-1178	
たまふれあいの家 枡形 医療・看取り対応型 たまふれあいグループホーム枡形 たまふれあいの家 枡形	〒214-0032 川崎市多摩区枡形6-19-8		TEL:044-911-1114 FAX:044-911-1115	
看護小規模多機能型居宅介護 ナース&ケアハウス ふれあい				
認知症対応型 デイサービスふれあい	〒214-0038 川崎市多摩区生田3-18-2 アボードベア1F		TEL:044-328-9150 FAX:044-328-9151	
たまふれあいの家 登戸新町 医療・看取り対応型 たまふれあいグループホーム登戸新町	〒214-0013 川崎市多摩区登戸新町186		TEL:044-930-6711 FAX:044-930-6712	
ー般社団法人 たまふれあいの森	〒214-0014 川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F		TEL:044-931-3380 FAX:044-931-3381	



たまふれあいグループ Tama Fureai Group